

TONA3ヵ月金利先物

TONAとは

コール市場において、金融機関同士が無担保で当日受渡し、翌日返済の条件で短期資金を貸し借りする取引のことを、無担保コールオーバーナイト物と呼んでおり、この際の貸し借りの金利を、無担保コールオーバーナイト物金利（TONA：Tokyo Overnight Average rate）といいます。

TONA3ヵ月金利先物の上場

TONAは日本円のリスク・フリー・レート（RFR：Risk Free Rate）として特定されており、日本銀行から公表されています。2021年12月末の日本円LIBORの公表停止を背景として、日本円のRFRの必要性が高まっている状況を踏まえ、先物取引による公正な価格発見機能を向上させるとともに、RFRとしての認知度向上を促すため、TONA3ヵ月金利先物を上場しました。TONA3ヵ月金利先物は、TONAを用いて3ヵ月間日次累積複利で運用したレートを対象とした先物取引となります。

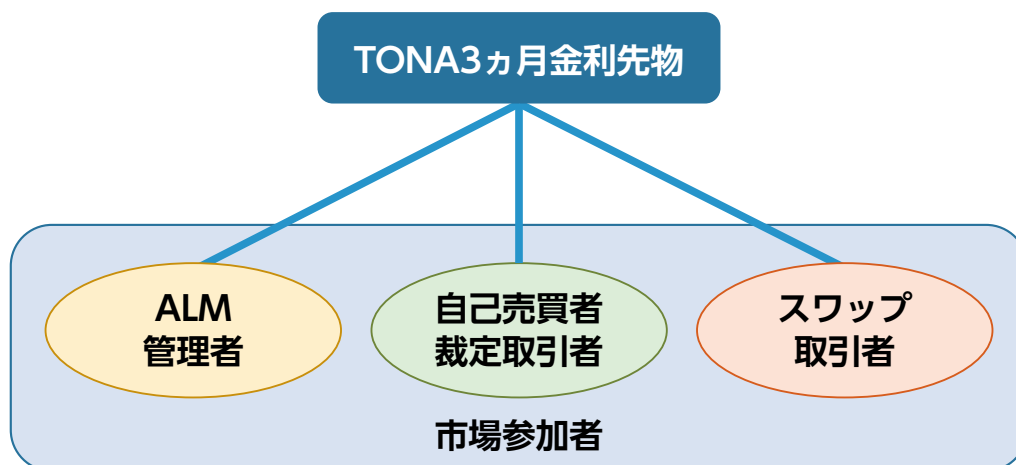
◆OTC（店頭）円金利スワップ取引のヘッジツールとして

OTC金利スワップにおいて、TONA金利をベースレートとする取引に多くが移行済みです。

3ヵ月毎のTONA金利を商品性に取り入れたことで、OTC金利スワップ取引のヘッジツールや代替取引としての利用が期待されます。

◆リスク管理・オペレーションの効率化

取引所の上場商品であるTONA3ヵ月金利先物を活用することで、より金利スワップマーケットの実勢に即したリスク管理が可能になるほか、OTC取引で発生する信用リスクや事務負担の軽減をはかることができます。



TONA3 ヲ月金利先物の商品概要

項目	商品仕様
原資産	限月から3ヶ月間のTONA日次複利
取引対象	限月から3ヶ月間のTONA日次複利を年率換算した数値を100から差し引いた金融指標
取引単位	1ベースの価値 = 2,500円
最小変動幅	0.001刻み (0.001% = 250円)
限月設定	四半期毎の限月 (3、6、9、12月限) を20限月 (5年)
取引最終日	各限月の3ヶ月後の第3水曜日 (例) 2023年6月限であれば、2023年9月20日 (水)
決済日	取引最終日の翌営業日
決済方法	差金決済
取引時間	8:45 ~ 11:30 (日中取引) 12:30 ~ 15:30 (日中取引) 15:30 ~ 20:00 (夜間取引) ※取引最終日限月の日中取引は 8:45 ~ 9:30
取引の成立方法	オークション方式 (価格優先・時間優先)
ティッカーコード	Refinitiv <0#JO3:> Bloomberg <YPOA Comdty> QUICK <030>

TONA 複利における日次累積複利および最終決済価格の計算方法

[前提]

金利参照期間：第3水曜日から3ヶ月後の第3火曜日の歴日数が90日の場合

営業日	曜日	TONA [平均] (確報値)	適用日数	金利計算
1日目	水	0.019	1	} 合計 90日 $1 + (0.019/100) \times (1/365)$
2日目	木	0.015	1	
3日目	金	0.018	3	
	...			
n日目	火	0.017	1	$1 + (0.017/100) \times (1/365)$

[ステップ1]

適用日数あたりの金利を計算する。

[ステップ2]

同一営業日のTONAが適用される適用日数ごとの金利計算の値を全て掛け合わせた後、1を引いて、金利参照期間の日次累積複利を求める。

$$\{1 + (0.019/100) \times (1/365)\} \times \{1 + (0.015/100) \times (1/365)\} \times \{1 + (0.018/100) \times (3/365)\} \cdots \\ \times \{1 + (0.017/100) \times (1/365)\} - 1 = 0.00004625$$

[ステップ3]

金利参照期間の日次累積複利を年率に変換するため、365日/90日（＝適用日数の合計）を掛ける
 $0.004625 \times 365/90 = 0.000187\dots$

[ステップ4]

年率の数値を百分率の数値とするため、100倍した後、小数点第4位で四捨五入し、100からその値を引いた数値が最終決済価格となる。

$$100 - (0.000187\dots \times 100) = 100 - 0.019\dots = 99.981$$

TONA3 ヲ月金利先物の活用方法

TONA3 ヲ月金利先物は、将来の各限月の第3水曜日から3ヵ月後の各月第3水曜日（取引最終日）の前日までの期間3ヵ月の金利（日次累積複利）を予想し、現時点で価格を決める取引です。

例えば、TONA3 ヲ月金利先物の202X年9月限（9ガツギリ）は、202X年9月第3水曜日から202X年12月第3水曜日（取引最終日）の前日までの期間3ヵ月の金利（TONAを日次累積複利で計算し年率換算した金利）を、現時点で取引するものです。

価格表示は、債券と同様に『100 - 金利（%）』としています。その結果、金利上昇（低下）と先物価格の関係は、以下のようになります。

TONA3 ヲ月金利先物の価格が下落

=

金利上昇

=

債券価格は下落

TONA3 ヲ月金利先物の価格が上昇

=

金利低下

=

債券価格は上昇

例）TONAの3ヵ月間の日次累積複利が1.200%の場合、価格表示では $100 - 1.200 = 98.800$ となります。

◆将来金利の指標として

2023年12月限が $99.980 \rightarrow 100 - 99.980 = 0.020\%$

2024年3月限が $100.000 \rightarrow 100 - 100.000 = 0.000\%$

2024年6月限が $100.020 \rightarrow 100 - 100.020 = \blacktriangle 0.020\%$

上記のように、期先の限月が期近の限月よりも高い価格で取引されている場合、マーケット参加者は、今後数ヵ月の間に金利がゆるやかに下降すると読んでいと予測できます。

金利先物等取引は、差し入れた証拠金以上の取引金額を扱うため、取引対象である金利の変動等により差し入れた証拠金以上の損失が発生する可能性があります。限月によっては、平時から流動性の低いものもあります。投資の際には、金融商品取引業者より交付される契約締結前交付書面等の内容を十分理解した上で、ご自身の判断で行うことが重要です。

©TFX 2023.3.20

本出版物に関する著作権は、株式会社東京金融取引所（TFX）にあります。本出版物は、TFXの制度概要を一般の情報のためにまとめたものです。内容には正確を期すように最大の努力を払いましたが、当該文書について何らかの齟齬があった場合には、TFXの公式規則が優先されます。本出版物は、解説を目的としたものであり、広告または、投資や運用等の助言を行うものではなく、本出版物に含まれる記述、計算等は例に過ぎません。また、本出版物は、法令等により金融商品取引業者が開示することを要する全ての情報を含むものではありません。本出版物に記載の事柄に関し、将来予告なしに変更することがあります。